

## 教育実習事前指導・教育実践演習を通じた学習成果に関する研究 ～3年次生と4年次生の関わりから～

仲宗根 森敦<sup>1)</sup> 高柳 真人<sup>1)</sup> 谷川 尚巳<sup>1)</sup> 中野 友博<sup>1)</sup> 川合 英之<sup>1)</sup>  
黒澤 寛己<sup>1)</sup> 大西 祐司<sup>1)</sup> 安倍 健太郎<sup>1)</sup> 柴田 俊和<sup>1)</sup>

### Study on Learning Outcomes Through Teaching Practice Prior Guidance / Educational Practice Exercises

～ The connection between 3rd and 4th year students ～

Moriatsu NAKASONE Masato TAKAYANAGI Naomi TANIGAWA  
Tomohiro NAKANO Hideyuki KAWAI Hiroki KUROSAWA Yuji ONISHI  
Kentarou ABE Toshikazu SHIBATA

#### Abstract

In 2003 (Heisei 15), this university was founded in Otsu City, Shiga Prefecture as the first university to be solely dedicated sports in Japan. Since opening, we have commenced teacher training course and so many graduates have graduated as qualified teachers. This report explains the outline of collaboration with in Biwako Seikei Sport College (2014) established in advance to teach practical training and practice exercises. The collaboration has been conducted since 2013 and the results are based on those from the years 2013 and 2014.

In this research, the following results were obtained;

- ・ There was advice from a detailed viewpoint
- ・ It was persuasive and there were concrete improvement points
- ・ Specific examples based on personal experienced were good
- ・ Practical exercises were better than advice from teachers
- ・ Tension
- ・ The 4th year students made an evaluation based on self-reflection from the previous years from previous year
- ・ Information exchange between fourth grade students
- ・ Able to recognize what has been acquired by evaluating self of 3rd year
- ・ Became capable of evaluating lessons
- ・ Become capable of reflecting on possible improvements to make

---

1) スポーツ学部

We also found the following problems;

- ・Elder students hesitated to proceed with simulated lessons
- ・There was advice which was not appropriate
- ・Should increase simulated lesson subjects
- ・Some students preferred to conduct simulated lessons with their classmates, not with those who are younger than themselves
- ・How to deal with students with poor attitudes
- ・Perspectives of advice and evaluation disintegration (polarization of quality)

In this study, we found that there are many learning outcomes throughout the two years, and it became clear that the simulation was received positively by 3rd and 4th graders. On the other hand, there was a big difference in the participation attitudes of students between those who wish to become teachers after graduation, and who are simply aiming to obtain qualifications, which appeared to be an obstacle for some.

Key words : teaching practice prior guidance, teaching educational practice exercises, relationship

キーワード：教育実習事前指導，教職実践演習，関わり

## I. はじめに

本学は2003（平成15）年に、わが国で最初のスポーツ学部を擁する単科大学として滋賀県大津市に設立された。開学以来、教職課程を開設し、これまで多くの卒業生が教員免許状を取得し卒業している。保健体育科の教員を目指して入学してくる学生は多く、卒業後の進路においても、毎年現役合格者が5名程度、常勤講師、非常勤講師の道に進む者が50名を超えている。本学の教職課程の企画・運営は、教職課程専門委員会が担当しており、その職務は、教職カリキュラムの編成、履修ルールの策定、教育実習、介護等体験、教職実践演習などの授業や体験、ガイダンスの企画・調整、指導、評価と多岐に渡り、さらには、学校ボランティアに関する業務や、就職委員会と連携した教員採用試験対策も担当している（びわこ成蹊スポーツ大学，2014）。本学で2010（平成22）年から活用している教職ハンドブックでは、本学の教員養成のポリシ

ーを「子どもや保護者、同僚からも信頼される、人間的にも教職の専門家としても優れた人材を育てたい」と設定し、①知徳体のバランスの取れた教養豊かな教員、②教育者として使命感や子どもに対する教育的愛情豊かな教員、③子どもの成長・発達を保障する専門性豊かな教員、④得意分野をもつ個性豊かな教員、という4項目をあげている（びわこ成蹊スポーツ大学，2016）。本報告では、「私立大学の特色ある教職課程事例集」で紹介されている、2013年度より行われた教育実習事前指導及び教職実践演習のコラボレーション（びわこ成蹊スポーツ大学，2014）の概要を説明するとともに、2013年度及び2014年度の取り組みの成果を示す。

## II. 教育実習事前指導及び教職実践演習の概要

### 1. 教育実習事前指導

本学では、教育実習へ向けて、教育実習生の心構えや実践的な指導力の養成を目的とし

て教育実習指導を行っている。その内容は1年次後期にガイダンス、2年次後期に行われる教育実習指導、3年次に行われる教育実習事前指導、4年次の教育実習直前に行われる直前指導、そして教育実習後に行われる教育実習事後指導で構成されている。教育実習事前指導では、第1回「教育職員になるためには」、第2回「指導案の書き方(体育)」,第3回「指導案の書き方(保健)」,第4回から第9回は生徒役、教師役に分かれての「模擬授業」、第10回「まとめ」で構成されている。教育実習の現場で必要となる知識や、教育実習生としての態度、教育現場の実際、教育実習生を受け入れる学校側から求められる人材について理解させるなど、教育実習に向けた知識を学ぶ機会とした。第1回から第3回と第10回のカリキュラムを教職課程専門委員会のメンバーが学生に指導を行い、第4回から第9回までは、学校スポーツコースの教員を中心とした、教科専門科目を担当する教員の指導のもと学生が模擬授業を展開した(びわこ成蹊スポーツ大学, 2014)。表1は、2016年度の教育実習事前指導の日程及び担当者一覧であるが、その指導計画は、2013年度に教職実践演習とコラボレーションを試みた当時から

ほとんど変わっていない。

## 2. 教職実践演習

教職実践演習では、第1回目の授業で、各自の履修カルテや教育実習体験の振り返りを通して、学習への動機付けや学習課題の確認を行う。第2回から第7回までの授業では、人権教育、特別支援教育、総合的な学習の時間、生徒指導、特別活動、自然体験学習といった今日の学校教育にとって重要な課題を取り上げる。受講者はそれらの意義や実際、教育の方法等を理解し、課題解決に向けた実際的な対応について学ぶとともに、教師としての使命感や責任感、教育愛の重要性を再確認する契機とする。第8回から第14回は、生徒役もしくは観客役として、模擬授業への参加とそのオリエンテーションを行う。また、第15回にこれまでのふり振り返りとまとめを行い、教職関連の学びに関するポートフォリオを完成させ、本学での教職課程の集大成とするようになっている。表2は2016年度の授業計画であるが、その指導計画は、2013年度より教育実習事前指導とコラボレーションを始めた当時からほとんど変わっていない。

なお、教育実習事前指導は3年次生の受講

表1. 2016年度教育実習事前指導日程及び担当者一覧表

日程	内容	2016年度 場所	2016年度 担当者						備考
			保健・理論	柔道	陸上	ダンス	体づくり	器械運動	
1 10/25 (火・5)	教育職員になるためには教育実習生としての心構え	第2ホール	高柳・中野・柴田・仲宗根						グループ分け(配布)
2 11/1 (火・5)	指導案の書き方(その1)	第2ホール	柴田・仲宗根						グループ分け(調整)
3 11/15 (火・5)	指導案の書き方(その2)	第2ホール	柴田・仲宗根						グループ分け(確認)
4 11/29 (火・5)	模擬授業	メインアリーナ①: 体づくり運動	谷川	黒澤	藤林	大西	柴田	仲宗根	4年教職実践演習で観察・評価
5 12/6 (火・5)	模擬授業	メインアリーナ②: ハードル・リレー	谷川	黒澤	藤林	大西	柴田	仲宗根	4年教職実践演習で観察・評価
6 12/13 (火・5)	模擬授業	マルチアリーナ:器械運動	谷川	黒澤	藤林	大西	柴田	仲宗根	4年教職実践演習で観察・評価
7 12/20 (火・5)	模擬授業	ダンス場:ダンス	谷川	黒澤	藤林	大西	柴田	仲宗根	4年教職実践演習で観察・評価
8 1/10 (火・5)	模擬授業	柔道場:柔道	谷川	黒澤	藤林	大西	柴田	仲宗根	4年教職実践演習で観察・評価
9 1/17 (火・5)	模擬授業	C104:保健・体育理論	谷川	黒澤	藤林	大西	柴田	仲宗根	4年教職実践演習で観察・評価
10 1/24 (火・5)	まとめ(課題と決意)	第2ホール	柴田・仲宗根						

表2. 2016年度教職実践演習の授業計画

授業計画		
第1回	9/27	導入（授業オリエンテーション、学習カルテや教育実習体験の振り返りにより、各自の学習課題を確認する）
第2回	10/4	人権教育について
第3回	10/11	特別支援教育について
第4回	10/18	総合的な学習の時間について
第5回	10/25	生徒指導について
第6回	11/1	特別活動について
第7回	11/15	自然体験学習について
第8回	11/22	授業演習のためのオリエンテーション（グループ分けと授業観察評価者の確認）
第9回	11/29	授業演習①
第10回	12/6	授業演習②
第11回	12/13	授業演習③
第12回	12/20	授業演習④
第13回	1/10	授業演習⑤
第14回	1/17	授業演習⑥
第15回	1/24	ふり振り返りとまとめを行い、教職関連の学びに関するポートフォリオを完成

生が多いため、以下、「3年次生」、教職実践演習は4年次生の受講生が多いため、以下、「4年次生」と簡潔に記す。

### 3. 教育実習事前指導と教職実践演習の学生のコラボレーション

教育実習事前指導と教職実践演習の学生のコラボレーションは、教育実習事前指導の第4回から第9回、教職実践演習の第9回から第14回が対象となる。4年次生は3年次生が行う模擬授業に生徒役（もしくは観察役）として参加し、模擬授業終了後に行われる反省会で、授業の評価および改善点を発表する。3年次生のねらいには、指導案の作成や実際の模擬授業を通じて、現場で通用する実践力を育むこと、4年次生は「授業観察力、授業評価力、授業改善力」に限定し、自分の考えを簡潔に表現する力を高めることをねらいとしている（びわこ成蹊スポーツ大学、2014）。教育実習事前指導では、3年次生を6班（各班25名程度）に分け、陸上競技、器械運動、保健・体育理論、体づくり運動、ダンス、柔道の6つの授業を、一週間ごとにローテーションしていく。また、1班をA～Eグループ（1グループ3人～4人）に分け、図1のように教師役を定めた。3年次生は、あらかじめ

班ごとに対象学年と本時のめあてを統一させて指導案を作成し、授業者が3名の班は、1人20分を模擬授業の持ち時間とした。また、授業者が4名の班は、2人で30分の模擬授業とし、1人15分を担当する。そのため、4名の班は二つの模擬授業を行うことになる。

教職実践演習の4年次生も同じように6班（各班20名程度）に分け、6つの授業を一週間ごとにローテーションしていく。また、1班をA～Eグループ（1グループ3～4人）に分け、図2のように評価発表役を示した。毎回の模擬授業の中では、生徒役として参加した3年次生は形成的授業評価（資料1）、観察役・生徒役として参加した4年次生には観察者チェックリスト（資料2）を用意し、授業に対する評価を行わせている。

2016年度 教育実習事前指導 模擬授業 出席簿

Aグループ			メイン① 藤林 陸上競技	マルチ 仲宗根 器械運動	C104 谷川 保健・理論	メイン② 柴田 体づくり	ダンス場 大西 ダンス	柔道場 黒澤 柔道
班	学科	コース	11/29	12/6	12/13	12/20	1/10	1/17
1	男	競技	コーチング				授業①	
	男	生涯	学校		介護		授業①	
	男	競技	ビジネス	介護			授業②	
	女	生涯	野外				授業②	
2	男	生涯	学校	授業①				
	男	生涯	学校	授業①				
	女	競技	ビジネス	授業②		介護		
	男	競技	コーチング	授業②				
3	女	競技	コーチング		授業①			
	男	生涯	学校		授業②			
	男	生涯	学校		授業③			
4	男	競技	コーチング	介護			授業①	
	女	生涯	学校				授業②	
	男	生涯	地域				授業③	
5	女	生涯	学校					授業①
	男	競技	コーチング					授業②
	男	競技	情報戦略					授業③
6	男	生涯	地域	介護		授業①		
	女	生涯	学校			授業②		
	男	競技	コーチング			授業③		

藤林	Aグループ → Bグループ → Cグループ → Dグループ → Eグループ → Fグループ
仲宗根	Fグループ → Aグループ → Bグループ → Cグループ → Dグループ → Eグループ
谷川	Eグループ → Fグループ → Aグループ → Bグループ → Cグループ → Dグループ
柴田	Dグループ → Eグループ → Fグループ → Aグループ → Bグループ → Cグループ
大西	Cグループ → Dグループ → Eグループ → Fグループ → Aグループ → Bグループ
黒澤	Bグループ → Cグループ → Dグループ → Eグループ → Fグループ → Aグループ

図1. 2016年度教育実習事前指導の班編成の例

2016年度 教職実践演習 授業演習 出席簿

Aグループ			メイン① 柴田 陸上競技	マルチ 仲宗根 器械運動	C104 谷川 保健・理論	メイン② 柴田 体づくり	ダンス場 大西 ダンス	柔道場 黒澤 柔道	
班	学科	コース	11/29	12/6	12/13	12/20	1/10	1/17	
1	男	競技	コーチング	評価発表					
	男	生涯	学校	評価発表					
	男	競技	ビジネス	評価発表					
	女	生涯	野外	評価発表					
2	男	競技	コーチング		評価発表				
	男	生涯	学校		評価発表				
	男	競技	ビジネス		評価発表				
	女	生涯	野外		評価発表				
3	男	競技	コーチング			評価発表			
	男	生涯	学校			評価発表			
	男	競技	ビジネス			評価発表			
	女	生涯	野外			評価発表			
4	男	競技	コーチング				評価発表		
	男	生涯	学校				評価発表		
	男	競技	ビジネス				評価発表		
	女	生涯	野外				評価発表		
5	男	競技	コーチング					評価発表	
	男	生涯	学校					評価発表	
	男	競技	ビジネス					評価発表	
	女	生涯	野外					評価発表	
6	男	競技	コーチング						評価発表
	男	生涯	学校						評価発表
	男	競技	ビジネス						評価発表
	女	生涯	野外						評価発表

柴田	Aグループ → Bグループ → Cグループ → Dグループ → Eグループ → Fグループ
仲宗根	Fグループ → Aグループ → Bグループ → Cグループ → Dグループ → Eグループ
谷川	Eグループ → Fグループ → Aグループ → Bグループ → Cグループ → Dグループ
柴田	Dグループ → Eグループ → Fグループ → Aグループ → Bグループ → Cグループ
大西	Cグループ → Dグループ → Eグループ → Fグループ → Aグループ → Bグループ
黒澤	Bグループ → Cグループ → Dグループ → Eグループ → Fグループ → Aグループ

図2. 2016年度教職実践演習の班編成の例

### Ⅲ. 調査の方法及び成果

3年次生には、教育実習事前指導第10回「まとめ」の際に、これまでの学びに関してアンケートを記入させる。その内容は、①今回の教育実習事前指導を通して、あなたが学ぼうと思っていたことは何ですか？、②教育実習事前指導において、授業をやって初めて気がついたことは何ですか？、③今回の事前指導を通して、あなたの身に付いたと思うことは何ですか？、④教育実習事前指導を終えた現在、あなたのこれからの勉強の課題は何ですか？、⑤今までに大学の授業で学んだことの中で、今回の事前指導で役立ったことは何ですか？、⑥大学の授業において、事前指導以前に学んでおきたかったことは何ですか？、⑦教職実践演習の4年生と一緒に模擬授業を実施したことについて、どう思っていますか？、⑧教育実習事前指導全体を通しての感想、といったものである（資料3）。

4年次生に対しても教職実践演習の最後に、①今回の教職実践演習を通して、あなたが学ぼうと思っていたことは何ですか？、②今回の教職実践演習において、実際に授業を受けて初めて気がついたことは何ですか？、③今回の教職実践演習を通して、あなたの身に付いたと思うことは何ですか？、④教職実践演習が終了した現在、あなたのこれからの勉強の課題は何ですか？、⑤今回の外部講師による講義で学んだことの中で、自分にとって一番有意義だと思った内容を、下の番号から選んで○をつけ、その理由を書いてください、⑥前記の外部講師の講義内容で、大学の授業においてもっと深く学んでおきたかったと思った内容を下の番号から選んで○をつけ、その理由を書いてください、⑦教育実習事前指導の3年生と一緒に模擬授業を受け、その評価をしたことについて、どう思っていますか？、⑧授業演習で体育理論を取り入れたことについて、どう受け止めていますか？、⑨教職実践演習全体を通しての感想、

を記入させる（資料4）。

本研究では、3年次生に記入してもらった、アンケート番号⑦教職実践演習の4年生と一緒に模擬授業を実施したことについて、どう思っていますか？という項目を取り上げ、5段階評価の割合を求め、本実践が3年次生にとってどのような取り組みになっていたのかを明らかにする。また、その際、自由記述を参考に成果を確認する手がかりを得た。4年次生には⑦教育実習事前指導の3年生と一緒に模擬授業を受け、その評価をしたことについて、どう思っていますか？に関する項目を取り上げ、5段階評価の割合を求め、本実践が4年次生にとってどのような取り組みになっていたのかを明らかにする。また、その際、事前指導の成果と同様に自由記述を参考に成果を確認する手がかりを得た。そこから、2013年度及び2014年度の成果を紹介する。

#### 1. 2013年度の成果

##### 1-1. 教育実習事前指導

3年次生に対して、⑦教育実習事前指導の3年生と一緒に模擬授業を受け、その評価をしたことについて、どう思っていますか？という設問に135人が回答を行なった。1の「非常に悪い」と回答したのは3人で全体の2%、2の「よくなかった」と回答したのは8人で全体の6%、3の「どちらでもない」と回答したのは25人で全体の18%、4の「よかった」と回答したのは55人で全体の41%、5の「非常によかった」と回答したのは44人で全体の33%であった（図3）。肯定的な印象を持っている（4または5を回答した）学生が74%であった。1の「非常に悪い」と回答した学生の理由には、「4年次生の受講態度が悪い」や「人数の調整ができなかった」という記述がみられた。2の「よくなかった」と回答した学生の理由には「上級生が勝手に動いていた」といった記述がみられた。3「どちらでもない」と回答した学生の理由に

は「4年生は対象の学生になりきっていた」「人数がすごく多くなってしまって、やりづらかった」といった記述がみられた。4「よかった」と回答した学生の理由においては、「教育実習を終えた先輩方の意見を聞けてよかった」「私のグループの4回生に関しては良かったと思う。」という記述があった。5の「非常に良かった」と回答した学生の理由には「3回生は、4回生に見られるという緊張があり、4回生は3回生に良いことを言わなければならないという緊張があり、とても良かった」「最初は偉そうに上から言われるだろうと正直思っていました。しかし、4回生の方々は去年、事前指導を経験されているだけあって親身になって授業を見てくださりました。一番僕たちの気持ちがわかるのは先生よりも4回生なのかもしれないと思いました。」という記述があった。

### 1-2. 教職実践演習

4年次生に対し教育実習事前指導の3年生と一緒に模擬授業を受け、その評価をしたことについて、どう思っていますか?という設問に133人が回答を行なった。1の「非常に悪い」と回答したのは0人で全体の0%、2の「よくなかった」と回答したのは6人で全体の5%、3の「どちらでもない」と回答したのは15人で全体の11%、4の「よかった」

と回答したのは77人で全体の58%、5の「非常に良かった」と回答したのは35人で全体の26%であった(図4)。肯定的な印象を持っている(4または5を回答した)学生が84%であった。2の「よくなかった」と回答した学生の理由には、「3年生の態度や取り組み方が悪い。本当に真剣に取り組んでいるのかわからない時があった。もっと積極的に取り組んだら良かったと思う。授業を受けて何が足りないのか見ることができたのは、4回生にとってはプラスであった」「一部では教師としていいかげんに授業していたので良くなかった」といった記述がみられた。3の「どちらでもない」と回答した学生の理由において記述された内容には「良かった点は、実習を終えて、実際の現場で行うことができる、できないを見分けることができた。悪かった点は、3年生の準備不足、出席率が悪い、来年実習に行くのに自覚が足りない」「本当に前から準備を行なった人の場合はよく思うが、適当に考えているような指導案も多く、本人たちのやる気が感じない授業もあり、その時は、評価する気分になれなかった」といった記述がみられた。4の「よかった」と回答した学生の理由において記述された内容には「一生懸命に授業の指導案を作っている人もいたが、そうでない人もいたように感じる。3回生、4回生がたくさんいたので仕切るのが大変そうだと思いますが頑張っている人が多かったので刺激を受けた」「教育実習に行った後なので、自分自身の経験と、照らし合わせながら受けることができた。3回生はとても頑張っていたと思う」という記述があった。5の「非常に良かった」と回答した学生の理由において記述された内容には「客観的に授業を見ることができ、また教育実習での経験が既にあったことで気がつくところがたくさんあったので、とても良かったと思います。」「自分たちも1年前はこんな感じだったなということを思ったので、頑張っている姿を見ているとアドバイスをしてあげた

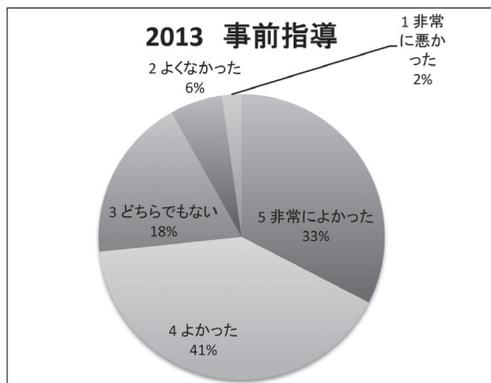


図3. 2013年度教育実習事前指導のアンケート⑦における結果

い！という気持ちを持ったのと、実習で足りなかった部分に気付かされたのでこのやり方は良いなと思った。」という記述があった。

## 2. 2014年度の成果

### 2-1. 教育実習事前指導

3年次生が4年次生と一緒に模擬授業を受けたことについて、121人が回答を行った。1の「非常に悪い」と回答したのは1人で全体の1%，2の「よくなかった」と回答したのは7人で全体の6%，3の「どちらでもない」と回答したのは14人で全体の12%，4の「よかった」と回答したのは50人で全体の41%，5の「非常によかった」と回答したのは49人で全体の40%であった（図5）。肯定的な印象を持っている（4または5を回答した）学生が81%であった。また1の「非常に悪かった」と回答した学生の理由において記述された内容には「4回生を生徒にして、タメ語で指示をしろ！と言われても無理がある。実際に先生をした時に、うるさいのが4回生で注意できない」という記述がみられた。2の「よくなかった」と回答した学生の理由において記述された内容には「4回生の授業態度が悪くて嫌だった」「いうことはしっかりしているけど、授業内で積極的に取り組んでくれなかった」といった記述がみられ

た。3の「どちらでもない」と回答した学生の理由において記述された内容には「模擬授業の時にとても緊張感があり、その点ではとても良い影響を受けたが、あまり、反省点を言ってもらえなかったから」「真剣に受けてくれる4年生とそうでない4年生がいた。陸上だったので寒いのがポケットに手を入れないというルールを作ったが守ってくれる人が少なかった」といった記述がみられた。4の「よかった」と回答した学生の理由において記述された内容には「実習を経験した人の感想を聞けるのは良かった。しかし、学校スポーツ・その他真面目な人とそうでない人の感想に差があった。」「教育実習で、実際に起きたエピソードなども聞くことができ、すごく説得力があった」「実際に教育実習に行っておられるので、自分で全然意識していなかったことなどを指摘してもらえたから。また同じ学年だけでなく先輩がいることで、緊張感を持って取り組むことができたと思うから」という記述があった。5の「非常によかった」と回答した学生の理由において記述された内容には「実際に現場での実習を終え、また去年の自分と重ねながら改善点のアドバイスをしてくださったので役に立ったと思う」「教育現場に行ったばかりのアドバイスは、すごくためになるし、リアリティがあっ

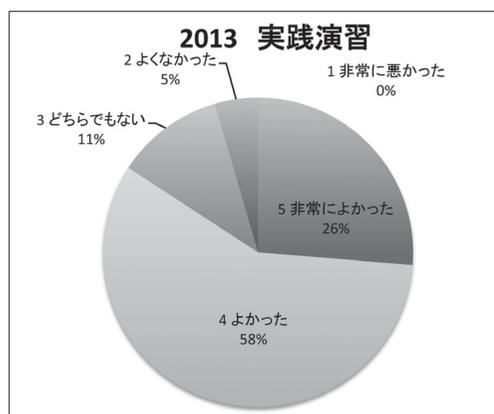


図4. 2013年度教職実践演習のアンケート⑦における結果

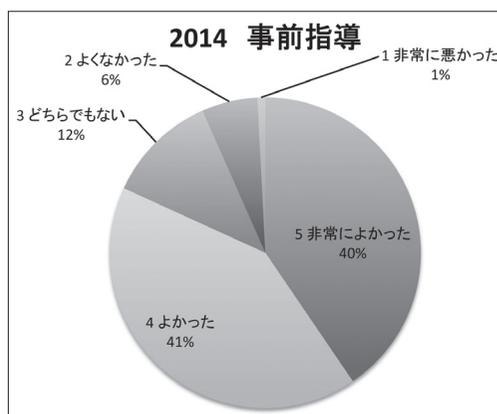


図5. 2014年度教育実習事前指導のアンケート⑦における結果

た」という記述があった。

## 2-2. 教職実践演習

4年次生が3年次生と一緒に模擬授業を受けたことについて、123人が回答を行なった。1の「非常に悪い」と回答したのは4人で全体の3%、2の「よくなかった」と回答したのは8人で全体の7%、3の「どちらでもない」と回答したのは18人で全体の15%、4の「よかった」と回答したのは67人で全体の54%、5の「非常によかった」と回答したのは26人で全体の21%であった(図6)。肯定的な印象を持っている(4または5を回答した)学生が75%であった。また1の「非常に悪かった」と回答した学生の理由において記述された内容には「教育現場を实际見た後だったので」「卒論などもあり、忙しい時期だったので、時間を考慮して欲しかった」という記述がみられた。2の「よくなかった」と回答した学生の理由において記述された内容には「模擬授業だからなんとかなると思います、授業をしていたような3年生がいたと感じるから」「私たち自身も同じように思われていたと思います、実際の現場とは違うということを知ってほしい、内輪ノリが多い」といった記述がみられた。3の「どちらでもない」と回答した学生の理由において記述された内容には「まだまだ細かい所を詰めていかないといけないが、良いところも多くあった」「学内というのもあり緊張感に欠けているものが多かった」といった記述がみられた。4の「よかった」と回答した学生の理由において記述された内容には「よかったが、おそらく評価をしっかりと受け入れている学生は少ない。また評価する側も、1回生が言うような内容であまり意味がないことを言う学生もいた」「自分ならどうすると考えながらできた」という記述があった。5の「非常によかった」と回答した学生の理由において記述された内容には「評価をするという気持ちがあるからこそ、良いことも悪いところも目につく

ようになり、改善策を考えることは大切だと思う」「授業の進め方や指導など、自分が思いつかないような模擬授業もあったので、自分にとってとてもプラスになった」という記述があった。

## IV. 成果と課題

### 1. 教育実習事前指導における4年次生とのコラボレーション型の授業の成果と課題

結果は概ね肯定的な意見が多かった。例えば、「教育実習を終えた先輩方の意見を聞いてよかった」、「教育実習で、実際に起きたエピソードなども聞くことができて、すごく説得力があった」という授業後のコメントに学校現場に関する情報が含まれており、具体的に説得力があったことが評価された、それは、「一番僕たちの気持ちがわかるのは先生よりも4年生なのかもしれないと思いました。」というコメントからわかるように、教員ではなく、先輩である4年次生が体験し、考え、教育実習で取り組んできたことだからこそであろう。年齢が近く、教育実習を受けた直後である4年次生から3年次生への授業評価は受講生に評価されている。また「3回生は、4回生に見られるという緊張があり、4回生は3回生に良いことを言わなければならないという緊張があり、とても良かった」と

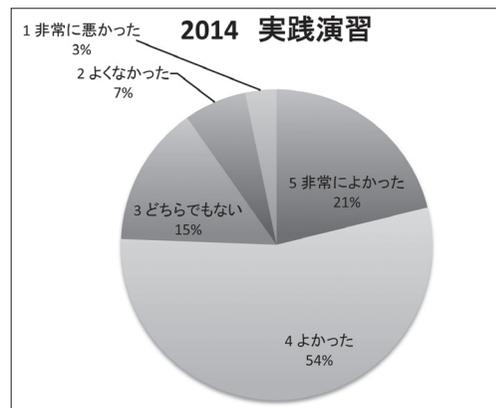


図6. 2014年度教職実践演習のアンケート⑦における結果

いうコメントから、3年次生、4年次生共に緊張感を持って取り組めたことが窺える。また「去年の自分と重ねながら改善点のアドバイスをしてくださったので役に立ったと思う。」ということから、4年生が去年の自分たちに重ねながら、評価をしてくれたのがよかったと感じている。また、「4年生は対象の学生になりきっていた」「人数の調整ができなかった」とコメントからわかるように、授業の難しさ、準備の大切さを、本実践で身を持って体験できたことで、教育実習に活かしてくれるのではないだろうか。

一方で、「4年次生の受講態度が悪い」と言ったように4年次生の取り組み方によって本コラボレーション型の授業への取り組みに対して否定的になってしまうことや、「先輩なので敬語を使ったり注意できない」とのコメントから、一部の学生には非常に模擬授業がやりづらい環境になっていたことが窺える。また、4年次生からのコメントに差があったという自由記述もあり、4年次生の取り組み方によって3年次生には影響を与えることが考えられる。

## 2. 教職実践演習における3年次生とのコラボレーション型の授業の成果と課題

4年次生は、3年次生の模擬授業に参加し評価することで、多くのことを吸収したようであった。例えば、「教育実習に行った後なので、自分自身の経験と、照らし合わせながら受けることができた」、「客観的に授業を見ることができ、また教育実習での経験が既であったことで気がつくところがたくさんあったので、とても良かったと思います」、「実習で足りなかった部分に気付かされたのでこのやり方は良いなと思った」といったコメントから、3年間を通じて自身の学びを再確認し、それが成果に繋がったのではないだろうか。また、「評価をするという気持ちがあるからこそ、良いことも悪いところも目につくようになり、改善策を考える」、「授業の進め

方や指導など、自分が思いつかないような模擬授業もあったので、自分にとっても、とてもプラスになった」という意見から、授業を評価する視点や、4年次生同士での情報交換、3年次生から新しい授業の展開を学ぶことができたことなど、4年次生自身も新しい学びが発見できたと考えられる。一方、「3年生の態度や取り組み方が悪い。本当に真剣に取り組んでいるのかわからない時があった。もっと積極的に取り組んだら良かったと思う。」、「一部では適当に教師として授業していたので良くなかった」、「3年生の準備不足、出席率が悪い、来年実習に行くのに自覚が足りない」、「指導案の出来がいいのと悪いのがある」など、3年次生の教育実習に対する真剣味が感じられない点や、受講態度を指摘している学生も多かった。3年次生の指導案作成の取り組みや、出席状況といった受講態度に意欲が感じられない際には、学びに影響が出ることが確認された。さらに、同じ4年次生に対しても、適切なアドバイスになっていない、といったように4年次生の取り組みに関しても不満を漏らす者もいた。そのことから、将来本気で教員になる学生、あるいは後輩のためになんとかしてやりたいと考えている学生にとっては、あまり参加に意欲的でない学生がいることで学びに負の影響が出ることが改めて明らかになった。つまり、受講生の本実践に取り組む意欲が二極化していると考えられる。このことから、授業担当者は、教育実習指導及び教職実践演習の目的を徹底して受講生に伝え、指導案作成を綿密に指導し、授業中の秩序を保つ、といったような努力が必要であろう。

自由記述より教育実習指導及び教職実践演習の良かった点、さらに改善点を示したのが表3である。

## V. おわりに

教育実習指導と教職実践演習のコラボレーションという発想は、「教職実践演習の具体

表3. 教育実習指導及び教職実践演習の成果と課題

	教育実習事前指導（3年次生）	教職実践演習（4年次生）
成果 (良かった点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年次生が対象の学年になりきって生徒役をこなした</li> <li>・細かい視点からのアドバイスがあった</li> <li>・説得力があった</li> <li>・具体的な改善点があった</li> <li>・自身のエピソードを踏まえた具体例が良かった</li> <li>・教員から言われるより実感が湧いた</li> <li>・緊張感があった</li> <li>・3年次生とは違った視点で4年生が評価を行なった</li> <li>・4年次生が去年の自分を見るようなイメージで評価を行なってくれた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次生に良い授業をする人がいたため勉強になった</li> <li>・4年生同士の情報交換ができる</li> <li>・自分が身につけていることを3年次生の授業を評価することで自覚できた</li> <li>・授業を評価する目が見ついた</li> <li>・自身ならどうするかと改善点を考えながらできた</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年上なので遠慮しているため模擬授業の進め方が難しい</li> <li>・4年生の授業も参観するべきか</li> <li>・改善点ではなく、批判が多くあった</li> <li>・適切ではないアドバイスもあった</li> <li>・受講態度が悪い学生をどうしていくか</li> <li>・指導案の出来が、良い出来のもの悪い出来のもの二極化</li> <li>・教員が授業の秩序をある程度保つべきである</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次生が4年次生に気を遣っていた</li> <li>・3年次生の授業時間が短く、現実味のない授業が多い</li> <li>・模擬授業の科目を増やすべき</li> <li>・4年次生同士でやりたい</li> <li>・受講態度が悪い学生をどうするのか</li> <li>・アドバイスや評価の視点がバラバラ</li> </ul>

的な構想を固めていく段階で最終的に行き着いた」(びわこ成蹊スポーツ大学, 2014)と述べられているように、教職課程委員会が施設や指導担当者への配慮の末に考え出した打開策であった。しかしながら本コラボレーションは、2年間を通じて3年次生及び4年次生に概ね肯定的に捉えられていることから、現在は本学の教員養成プログラムの重要な一角を担っているともいえるであろう。一方で、現状は卒業後に教員になるつもりで参加している学生と、資格取得が目的の学生の授業への受講態度に大きく差が見られ、一部の学生にとってはそれが学習を阻害している要因となっていることが見受けられた。本学の教員養成のポリシーを踏まえ、どのように教員志望学生の質を保証していくか、継続的に調査をし、今後さらなる改善を図りたいと考えている。

#### 参考・引用文献

- びわこ成蹊スポーツ大学 (2016) 教職ハンドブック. pp 1-8.
- びわこ成蹊スポーツ大学 (2014) 教育実習指導と教職実践演習のコラボレーション－授業実践力の定着を目指して－. 私立大学の特色ある教職事例集: pp23-26.
- 柴田俊和・古川雅里子 (2008) 教育実習における学生の学びと自己評価の現状及び課題. びわこ成蹊スポーツ大学紀要第6号: pp.157-173.
- 柴田俊和 (2013) 教育実習の事前指導と学生の学びに関する調査研究. びわこ成蹊スポーツ大学紀要第10号: pp.77-99.

教育実習指導 体育実技形成的授業評価・授業省察

11月29日(火)

( )グループ( )班 : 学籍番号( )氏名( )

設定対象:(小・中・高)校、(1・2・3)年生、 単元名 ( )  
 授業( ① or ② )

【形成的授業評価】

今日の体育授業について質問します。下の1~11について、あなたはどのように感じましたか。  
 あてはまるものに○を付けて下さい。(※模擬授業なので、設定された対象学年を想定して評価して下さい。)

1. 深く心に残ることや感動することがありましたか。( はい・どちらでもない・いいえ )
2. 今までにできなかったこと(運動や作戦)ができるようになりましたか。( はい・どちらでもない・いいえ )
3. 「あっ、わかった！」とか「あっ、そうか」と思ったことがありましたか。( はい・どちらでもない・いいえ )
4. 精一杯、全力を尽くして運動することができましたか。( はい・どちらでもない・いいえ )
5. 楽しかったですか。( はい・どちらでもない・いいえ )
6. 自分から進んで学習することができましたか。( はい・どちらでもない・いいえ )
7. 自分のめあてにむかって、何回も練習できましたか。( はい・どちらでもない・いいえ )
8. 友だちと協力して、仲良く学習できましたか。( はい・どちらでもない・いいえ )
9. 友だちとお互いに教えたり、助けたりしましたか。( はい・どちらでもない・いいえ )
10. 今日の体育の授業で、先生に声をかけてもらいましたか。( はい・どちらでもない・いいえ )
11. 今日の体育の授業で、友達に声をかけてもらいましたか。( はい・どちらでもない・いいえ )

【授業省察】

本時の  
学習のねらい

--	--

事実	評価できる点 (なぜそのように評価できるのか具体的に)	自分なりの改善点 (何をどのように改善するのか具体的に)
①	①	①

【その他模擬授業の感想・反省】

--

資料1. 教育実習指導の形成的授業評価

教職実践演習 体育授業観察者チェックリスト・授業省察 11月29日(火)

( )グループ( )班 : 学籍番号( )氏名( )

設定対象:(小・中・高)校、(1・2・3)年生、 单元名 [ ]

【体育授業観察チェックリスト】 授業( ① or ② )

今日参加したor観察した体育授業について、あなたが感じたままに評価してください。(各質問項目について、1から5の尺度のなかで当てはまる番号に○をつけてください。)

- 1. 先生は、ほめたり励ましたりする活動を積極的に行っていた。 ( 1 - 2 - 3 - 4 - 5 )
2. 先生は、心を込めて生徒に関わっていた。 ( 1 - 2 - 3 - 4 - 5 )
3. 先生は、適切な助言を積極的に与えていた。 ( 1 - 2 - 3 - 4 - 5 )
4. 学習成果を生み出すような運動(教材、場づくり、学習課題)が用意されていた。 ( 1 - 2 - 3 - 4 - 5 )
5. 学習資料(学習ノート、カード)が有効に活用されていた。 ( 1 - 2 - 3 - 4 - 5 )
6. 楽しく学習できるような運動(教材、場づくり、学習課題)が用意されていた。 ( 1 - 2 - 3 - 4 - 5 )
7. 子ども(生徒)が、意欲的に学習に取り組んでいた。 ( 1 - 2 - 3 - 4 - 5 )
8. 子ども(生徒)の笑顔や拍手、歓声などがみられた ( 1 - 2 - 3 - 4 - 5 )
9. 子ども(生徒)が、自ら進んで学習していた。 ( 1 - 2 - 3 - 4 - 5 )
10. 授業の場面展開がスムーズに行われていた。 ( 1 - 2 - 3 - 4 - 5 )
11. 移動や待機の場面が少なかった。 ( 1 - 2 - 3 - 4 - 5 )
12. 授業の約束事が守られていた。 ( 1 - 2 - 3 - 4 - 5 )
13. 生徒が何を学習し何を身に付けようとしているのかがよくわかる授業であった。 ( 1 - 2 - 3 - 4 - 5 )
14. 生徒同士が、積極的に教えあっていた。 ( 1 - 2 - 3 - 4 - 5 )
15. 生徒の上達していく姿が見られた。 ( 1 - 2 - 3 - 4 - 5 )
16. 今日の授業は「よい体育授業」であった。 ( 1 - 2 - 3 - 4 - 5 )

【授業省察】

本時の学習のねらい

[Empty box for learning objectives]

Table with 3 columns: 事実 (Fact), 評価できる点 (評価できる点 (なぜそのように評価できるのか具体的に)) with a circle symbol, 自分なりの改善点 (自分なりの改善点 (何をどのように改善するのか具体的に)) with a triangle symbol. Row 1 contains circled numbers 1 in each cell.

【その他模擬授業の感想・反省】

[Empty box for reflections]

## 2013年度教育実習事前指導を終えて

教職課程専門委員会  
2014.1.21 (火) 5限

- ①今回の教育実習事前指導を通して、あなたが学ぼうと思っていたことは何ですか？
- ②教育実習事前指導において、授業をやって初めて気がついたことは何ですか？
- ③今回の事前指導を通して、あなたの身に付いたと思うことは何ですか？
- ④教育実習事前指導を終えた現在、あなたのこれからの勉強の課題は何ですか？
- ⑤今までに大学の授業で学んだことの中で、今回の事前指導で役立ったことは何ですか？
- ⑥大学の授業において、事前指導以前に学んでおきたかったことは何ですか？
- ⑦教職実践演習の4年生と一緒に模擬授業を実施したことについて、どう思っていますか？
- 5：非常に良かった 4：よかった 3：どちらでもない 2：良くなかった 1：非常に悪かった  
理由
- ⑧教育実習事前指導全体を通しての感想

## 2013年度教職実践演習を終えて

教職課程専門委員会  
2014.1.20 (火) 5限

①今回の教職実践演習を通して、あなたが学ぼうと思っていたことは何ですか？

②今回の教職実践演習において、実際に授業を受けて初めて気がついたことは何ですか？

③今回の教職実践演習を通して、あなたの身に付いたと思うことは何ですか？

④教職実践演習が終了した現在、あなたのこれからの勉強の課題は何ですか？

⑤今回の外部講師による講義で学んだことの中で、自分にとって一番有意義だと思った内容を、下の番号から選んで○をつけ、その理由を書いてください。

1. 人権教育 2. 特別支援教育 3. 生徒指導 4. 総合的な学習の時間 5. 特別活動 6. 自然体験学習  
理由

⑥前記の外部講師の講義内容で、大学の授業においてもっと深く学んでおきたかったと思った内容を下の番号から選んで○をつけ、その理由を書いてください。

1. 人権教育 2. 特別支援教育 3. 生徒指導 4. 総合的な学習の時間 5. 特別活動 6. 自然体験学習  
これら以外で、卒業までに再確認して学びたかった内容があれば書いてください。  
理由

⑦教育実習事前指導の3年生と一緒に模擬授業を受け、その評価をしたことについて、どう思っていますか？

5：非常に良かった 4：よかった 3：どちらでもない 2：良くなかった 1：非常に悪かった  
理由

⑧後半の授業演習で自然体験学習を取り入れたことについて、どう受け止めていますか？

5：非常に良かった 4：よかった 3：どちらでもない 2：良くなかった 1：非常に悪かった  
理由

⑨教職実践演習全体を通しての感想